

○ 本校の概要

本校は昭和22年に開校し、私鉄の4駅に囲まれた交通至便な住宅街にあり、現在は12学級、全校生徒361名の中学校である。敷地は風致地区内にあり、自然に溢れ、4月には校庭も一面桜の花で覆われる。校庭の竹林にはたくくさんのタケノコが生え、給食で春の香りを楽しんでいる。隣接して区民の憩いの場である周囲を15分ほどで歩ける風光明媚な洗足池があり、運動会の長距離走ではここがコースとなっている。生徒たちはこの池にホタルを自生させる活動に取り組み、毎年その風情を地域の方から喜ばれている。また、落ち葉を集めて作ったミズコンポスト、夏の陽射しをさきぎるゴーヤのグリーンカーテン、さらに近くの駅の駅前花壇作り等も行っている。教育目標は ○気品のある生徒の育成 ○実力のある生徒の育成 ○健康の優れた生徒の育成 の3つを掲げている。教育活動は、地域を「屋根のない学校」として捉え、地域の人としてをモットーに地域の中で、地域の人々と共に、地域のために、環境を保全する環境教育や、災害に立ち向かう場所としての防災教育を中心に、国際理解・交流教育、地域連携教育、人権・人命尊重・平和教育を行い、生徒の自己有用感、自己肯定感を育んでいる。自分の育った地域に愛着を持ち、郷土愛を育み、将来の日本、世界の様々な課題を考慮解決して、心豊かに生きていく基盤となる教育実践を行うことで、20年・30年後の持続可能な社会の担い手を育てる持続発展教育(ESD)を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 基礎学力の定着を目指し、定期考査前に、専任教員と学習指導講師が協力して、国語・社会・数学・理科・英語の五教科の補充授業実施する。	4: 生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が90%以上 3: 生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が80%以上 2: 生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%以上 1: 生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%未満	4	今年度も定期考査1週間前の部活動停止期間に「青竹クラブ」と称して5教科の補充授業を実施してきた。その成果もあり成果指標達成率93.17%と概ね良好な状況であった(昨年92.8%)。今後は定期考査以外の時期の補充授業を計画し、土曜青竹クラブと合わせてより個別の指導を充実させたい。	・保護者会等で、青竹クラブの宣伝をもっとして良いと思います。 ・習熟のための取り組み以外に、授業一質の向上に向けた取り組み(主体性・創造性・協働性の追究)を明確に示してほしい。 ・教職員の方々の生徒たちを育てる努力と思いやりのある教育に感謝しております。引き続き学習意欲・学力が高まるよう継続していただきたい。 ・勉強する事が将来役に立つことを考えて勉強してほしい。 ・学習については全て取り組んでいる。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 人と人、人と自然のつながりを体験させ、積極的に参加させる。	4: 生徒対象アンケートの該当する項目(1～8)生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が90%以上 3: 生徒対象アンケートの該当する項目(1～8)生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が80%以上 2: 生徒対象アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%以上 1: 生徒対象アンケートの該当する項目(1～8)生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%未満	4	大田区の発表会にむけて、ユネスコスクールとしてESDの活動をより活性化してきた結果、成果指標達成率が90.83%と充分満足できる達成率になった。「自分にはよいところがある。」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。」という自己肯定感を問う設問の達成率は76.4%とまだ不十分であったが、昨年度より1%であったが上昇した。今後は全校生徒参加型のESDの活動をより強化し、国立教育政策研究所の発表会にも備えたい。	・思春期の生徒が自己肯定感を持つのは難しいかもしれませんが。周囲の人間が一人一人の良さを認め、口に出して言うことで自分の良さを認められると思います。 ・六中の取り組みの成果をもとにボランティア教育の推進は今後も小中で重視していきたい。 ・継続的な活動により成果が確認できました。引き続き人格、人間性を高める教育をお願いします。 ・自己肯定感には小学生のうちから育てなければと思う。 ・ESDによる行動は定着してきている。 ・校内でのルールなどは崩れてきている様に感じる。 ・特別支援教育を必要とする生徒への充実させていく必要もあると感じる。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 持久走の記録をチェックシートで、昨年度の記録と比較させることで、生徒の向上心高め、また、その記録を保護者にも知らせる。	4: 生徒対象アンケートの該当する項目(16・17・22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が90%以上 3: 生徒対象アンケートの該当する項目(16・17・22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が80%以上 2: 生徒対象アンケートの該当する項目(16・17・22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%以上 1: 生徒対象アンケートの該当する項目(16・17・22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%未満	2	成果指標達成率は78.08%であり、昨年度の90.32%と比べてもけっして満足いく数値ではなかった。「学校の授業(体育)での取り組みで持久走の記録が向上した。」という設問の達成率が64.2%と低調だったことが原因であったと思われる。担当教諭が体調を崩し、担当者の変更等によりカリキュラム調整を行ったこと等による影響がある。	・78%は結果として低いとは思いません。 ・今後の改善について明記してほしい。 ・知らせる事により評価が上がるので取り組みに期待しますが、体力向上に向け総合的に成長するよう希望します。 ・体育だけでなく体力の向上も考えたい。 ・専任教諭から引き続き、うまくいかなかったのか不思議に感じた。 ・中学生でつける基礎体力は将来大切になってくるのでがんばって欲しいと感じる。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 「すべての教室に新聞を」運動を実施することで、生徒の学習環境の向上を図る。	4: 生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が90%以上 3: 生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が80%以上 2: 生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%以上 1: 生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%未満	4	成果指標達成率は91.33%と概ね満足いく数値であった。教員側の成果評価も昨年度の3から4に上がった。しかし今年度も図書室や特別活動室・理科室の電子黒板などのICT機器の使用状況が教科によって差が大きい。今後研修を深め普通教室でもタブレットパソコンを使用することを試みる。また、昨年度は教科や担当教諭・講師によっては成果指標の達成率が低い傾向があったが解消されてきた。	・OJTの取組は大切だと思えます。 ・ICT機器の活用については、科目により向き・不向きがあるかと思うので質問自体が現実にはすぐわかないと思います。 ・時間講師の先生の質が高まっていることは先生方の熱意と大変な努力の成果だと思えます。 ・先生方が感じている事が成果評価なのでAIにつけた。私としては授業改善の前後は分らず判断できない。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 朝礼、講演会、まちなか点検、学校防災訓練等の地域と連携した教育実践を実施する。	4: 保護者対象アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が90%以上 3: 保護者対象アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が80%以上 2: 保護者対象アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%以上 1: 保護者対象アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%未満	3	成果指標達成率は89.70%(昨年97.75%)と概ね満足いく数値であったといえる。今年度も最終的には、学校防災訓練において生徒が実際に避難する地域の方々を顔合わせしたり、地域の方々「まちなか点検」を実施したりしてきた。年度当初連携がやや不足したことがあった。学校と地域、関係機関の緊密な連携を引き続き図っていく。	・学校の総合の授業などや、外部の人の講演や農作業活動、生徒会の校外活動を地域や保護者にもっと宣伝し、見学に来てもらおう良いと思います。 ・地域連携の積極的な取り組みは素晴らしいと思います。 ・取り組み評価が4なので4でよいと思います。 ・今後の改善について明記してほしい。 ・地域の中の人として育ってきています。卒業生が社会で役立つ活躍する姿を期待し、地域も楽しみに応援できるようもって伝えていただきたい。 ・地域との防災訓練では、生徒は先生の指導のもと真面目に活動をして頼もしく思っています。 ・引き続き、家庭・学校・地域が良好な連携関係を保ち、健全な環境の中で六中が成長していくことを希望しております。 ・次年度に期待しております。 ・学校の行事は例年通りだろうが、地域への告知が減ったのか学校の活動が見えづらくなった。出来ればもっと広報して欲しいと感じる。また保護者向けの広報にもつながると思うが、配られたお知らせなどはホームページに載せていると学校の中での教育も伝わり易いのでは?と思った。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。